

非行に走る中学生と本気で向き合うということ ～地域でみつけた頼れる人たち～

「子どもたちが足を踏み入れている深夜はいかいいという世界でどんなことが起きているか想像できますか？」

浦添市と中城村でそれぞれバイクショップを運営する嘉数明(42)さんと津波古芳美(38)さんは、非行に走る中学生と真正面から向き合う日々を送っています。

取材当日、浦添市伊祖のバイクショップ「スパイス」では、2人の職場体験中の中学生と嘉数さんがいつものように店内でミーティングを始めていました。店内に入ると、子どもたちは嘉数さんの指示で、私たちに椅子を用意してくれました。まだあどけない表情の中学生の姿がそこにありました。途中、津波古さんが合流し、2時間程、子どもたちの普段の様子を話してくれました。その間、2人の中学生は姿勢を正したまま、両氏の話に耳を傾け、時々投げかけられた質問に小さくうなずいて答えていました。

津波古さんは2005年に知り合いからの相談をきっかけに、中学生と関わるようになり、その後、嘉数さんも加わりました。今では学校の先生方や親、地域の方々と連携しながら「深夜はいかいい」を繰り返す子どもたちを真夜中に探し回ることも日常茶飯事です。犯罪や悪い大人から子どもたちを遠ざけるため、「職場体験」として受け入れるだけでなく、彼らの生活すべてに本気で関わり、本気で叱り、本気で導き、本気で彼らの生活に一步踏み込んでいくのをためらう様子もありません。また、本気で向かい合うのは、子どもたちだけではなく、「親が変われば子どもも変わる」と両氏は声をそろえて訴えます。子どもたちを受け入れる時は、必ず「お弁当を持たせること」を親に求めます。子どものことで気になることがあったら、すぐに親に連絡することも欠かさず行います。このような両氏の「本気」さに触れ、親もだんだんと変化してくるのです。現在、連携を密にしている中学校教諭は「彼らの凄いいところは子どもだけではなく、親をも変えること、僕は2人にゾクコンです。」とこやかに語ってくれました。

【諸悪の根源は深夜はいかいいである】

・深夜はいかいいをなんとかしない限り何もよくなるらない。

【地域のみなさんをお願いしたいこと】

・喫煙などを見かけたときは、見て見ぬふりをしないでほしい。

・「頼み買い」を許さないでほしい。

※「頼み買い」とは…店舗の前などで聞いてくれそうな大人に頼んで、たばこやお酒を買ってもらうこと。



▲バイク修理作業中の様子

相手の成長を願って本気で『叱る』ことのできる身近な人が今の社会にどれだけいるのでしょうか・・・



浦添市母子生活支援施設浦和寮 朝ごはんプロジェクト

みんなで朝ごはんを食べよう！と毎週木曜日の朝、施設の子どもたちみんなで朝ごはんを食べています。和食を中心に提供し、食材はフードバンクや企業の方々からの寄付にご協力いただいています。

子どもたちに朝ごはんを食べることの大切さや、みんなでごはんを食べる温かさを感じてほしいと朝ごはんプロジェクトを始めました。

浦和寮には最大20世帯約60名の利用者がいます。さまざまな事情で入所し生活しています。生活の基である衣・食・住の安定を目指し、一人ひとりの子どもが愛され大切にされていると感ずることができるよう、子育て支援、生活支援を行っています。

朝ごはんは1日のエネルギー源。子どもたちが、しっかりと朝ご飯を食べ、元気に学校へ行けるように支援していきたいと考えています。しかし、朝ごはんプロジェクトを充実させていくための新鮮な食材が不足しています。長期保存できる缶詰類などはフードバンクから調達していますが、毎日必要なお野菜やお米、生鮮食品などは保存がきかないため、地域の皆さんの**定期的な支援**を必要としています。

現在は週に1回ですが、今後回数を増やし、夕ごはんプロジェクトまで行えるような環境づくりを目指しています。朝ごはんプロジェクトの趣旨にご賛同いただける地域のみなさんを募集しています。ぜひ、子どもたちの健やかな成長を願い、応援して頂けるよう、ご支援をお願いします。



うちは、スーパーやってくるんだけど・・・月に数回ならお米や生鮮食品の協力できるよ。



うちの畑でとれた人参だったり、あるよ～。

浦和寮へご連絡の上、支援者登録をお願いします。 お問い合わせ先：877-8051